

「渋沢栄一翁が関わった企業『百社一首』」の制作に協力いたしました！

株式会社七十七銀行（頭取 小林 英文）は、埼玉県深谷市と埼玉工業大学の共同プロジェクトである「渋沢栄一翁が関わった企業『百社一首』」の制作に協力いたしました。この度、商品が完成し、一般発売開始日が決定しましたので、下記のとおりお知らせいたします。

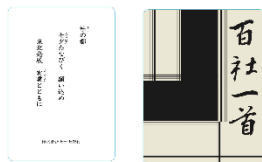
記

1. 「渋沢栄一翁が関わった企業『百社一首』」の取り組み

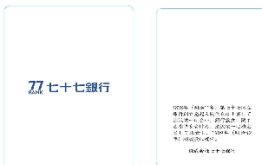
渋沢栄一翁がデザインされた新一万円札の流通に合わせ、渋沢栄一翁と関わりのある企業・団体を、幅広い年代に身近に感じていただくことを目的として、「渋沢栄一翁が関わった企業『百社一首』」が制作されました。当行は、渋沢栄一翁と関わりのある企業として、本プロジェクトに協力いたしました。

また新紙幣の流通に合わせ、当行の金融資料館において展示することを検討しております。詳細については、決定次第改めてお知らせいたします。

読み札：「杜の都 七々たなびく 願い込め 東北発展 実業とともに」



▲読み札



▲取り札

商品名	渋沢栄一翁が関わった企業『百社一首』
発売日	2024年6月30日
価格	2,750円(税込)
購入にかかるお問い合わせ	https://www.tatsumi-insatsu.co.jp/100sya-isshu/ ※5月27日以降にご覧いただけます。

2. 渋沢栄一翁と当行の関わり

「日本の資本主義の父」と呼ばれた実業家の渋沢栄一翁は、第七十七銀行の設立に際して、銀行業の本質や経営の基本的な考え方などに関するさまざまな助言や出資を行うとともに遠藤敬止（第二代・四代頭取）や大野清敬（第五代頭取）などの人材を第一国立銀行より派遣しました。さらに、第一国立銀行の宮城県における業務を第七十七国立銀行へ譲ったほか、1908年には自ら相談役に就任するなど、長年にわたり当行を物心両面で支援しました。当行の経営理念を記した行是には「銀行の発展は地域社会の繁栄とともに」の一節があり、渋沢栄一翁の「道徳経済合一」の精神が今も根付いています。

以上

